

平成23年度第1回岩倉市行政経営プラン推進委員会

と き：平成24年2月13日（月）午後1時30分から午後5時

欠席委員：なし

行政課長 岩倉市行政経営プランは、集中改革プランが終了したことに伴い新たに策定するものである。積極的発言をお願いしたい。

市長 市では、計画的な取り組み効率的な行政運営をしてきた。向こう5年間の指針として行政経営プランと行動計画の策定を目指している。この推進委員会はプラン策定に当たり、市民、有識者、委員の意見を反映するために開いた。それぞれの立場で忌憚のないご意見をいただきたい。内容の詳しい説明は後ほど担当者からさせる。プランの柱は、1つは、目標の柱として市の施策に対する市民満足度の向上である。市民のための施策がコスト削減の名の下に削られては本末転倒である。財政的な視点を持ちながら市が本来求めるべき市民満足度の向上に向かうことが大事だと考える。2つ目は、行動計画は全ての課から挙げたものである。これまでは全庁的でなかった部分の反省を踏まえ、今回は全ての課が行政を経営の視点から見るができるようになることで改革の輪が広がることを目指している。私はこの計画について完全に満足はできない。全員参加という意味で全ての課の参加を先に促すのが大事である。その中で磨くのが全員参加の次に重要ではないかと思う。委員の皆さんには岩倉市の発展のためにご意見をいただくようお願いする。

（市長による委嘱状の交付）

（市長退席）

行政課長 委員の任期は23年4月1日から26年3月31日までである。委員は初めて顔を合わせる。自己紹介をお願いしたい。

委員長 四日市大学に在籍している。前回の行革の委員会の途中から関わっている。大学では地方自治を勉強している。岩倉市とも縁あった。2月26日には自治基本条例について講演の機会がある。総合計画にも若干関わった。今回の審議とともに、岩倉市民の皆さんとともに、勉強したい。

委員 大地町の日通商事の整備部長をしている。三重県桑名市在住。おとし4月から岩倉市で勤務している。それほど市に詳しくないが、企業代表として、お役に立てればと思う。3年間よろしくをお願いしたい。

委員 本年度、岩倉青年会議所理事長を務めている。まだまだ未熟だがよろしくをお願いしたい。

委員 稲荷町在住。一主婦として元気で活気のある町になってほしい。埋もれている私たちの年代の力で何かを提言できたらよいと思っている。

委員 大山寺在住。普段は会社員をしている。岩倉市に寝に帰るだけの方の代表として意見を言いたい。昨年末に駅に店を出した。特に駅前にもっと活気が出ればと思い、この機会に参加した。

委員 まさかここに座るとは思わなかった。市役所退職から3年。現在社会福祉協議会にいる。これまでの経験を元に発言できればと思う。

委員 岩倉市など一宮、江南、大口、扶桑の働く仲間の代表として日ごろ活動している。市にも年1回政策要望を出している。江南在住。岩倉市のことを勉強したい。

委員 婦人会代表として参加している。婦人会会長の代理ということで来ている。いろいろな意見を持ち帰りながら、ここで意見が出せたらと思う。

委員 63歳になる。それまで会社員をしていた。なかなか岩倉を見てこなかった。年金暮らしである。昨年から区役員を務め、40年近く住んでいるが初めて岩倉を知った。ボランティアで桜を守る会に入っている。岩倉のまちづくりについて勉強をさせていたきたい。

委員 平成16年から岩倉市に住んでいる。社会保険労務士をしている。地方自治に興味がある。事前の説明会で、プランと課ごとの行動計画について説明を受けたが、この委員会で計画を作るわけではないと知り少し安心した。岩倉について勉強していきたい。

(総務部長以下市職員の紹介)

(委員長に岩崎委員を選出し、副委員長に長瀬委員を選出した)

委員長 岩倉でない方もいて心強い。関わり方は個人、事業所、労働者など様々だと思う。今回の計画は、内部の目になりがちなところを、外部の視点でさまざまな意見を取り入れて計画を作るのが趣旨だろう。任期は3年ある。時には急ぎ、時にはゆっくりと議論すればよいと思う。忌憚のない意見をお願いしたい。

委員 38年市役所にいた。2年間は市内にいたあと、県外に出てしまったが、全ての職員は市民と同じ気持ちで仕事をしているはず。副委員長としてお役に立ちたい。

行政課長 委員長に進行をお願いしたい。岩田委員は3時で退席する。

委員長 早速議論を進めたい。私たちが何をするのかを確認したい。要綱第2条にあるように、私たちは、行政改革の重要事項について審議、評価及び提案し、その結果を岩倉市行政改革推進本部に報告するのが任務である。皆さんは3日間の日程で集中審議をしようということをお願いされている。この間に何をするのか、しなければいけないか、市は何を期待しているのかを含め、説明いただきたい。私も市からお話を聞いたときに無作為抽出をするということで驚いた。どう思ったか。

委員 びっくりした。市からアンケートが来て、市の委員会へ参加を希望すると答えたら、当たった。

委員 岩倉市のためにお役に立てれば良いと思った。

委員長 いくつかの自治体で無作為はあるが。近隣の自治体の状況はどうか。

行政課主幹 近隣では例がない。

委員長 いろいろな方の意見を聞きたいという姿勢の表れだと思う。導入が早くてびっくりした。公募はいろんな自治体でやっている。事前に市と相談したときに、登録希望の方、公募の方の応募時の意見がどんな意見を出したのか皆で見えてはどうかということで、資料を付け加えてもらった。委員会の背後にこのような意見があるということで参考にしてほしい。これはホームページには出すのか。議事録も出すのか。

行政課主幹 発言者を隠して、要約形式で公開する。資料も公開していく。登録希望者と公募者の意見の取り扱いは未定である。

委員長 登録希望者と公募者の意見は公開を想定していないので紙ベースでこの会議で共有することとしたい。会議録は要点筆記でお願いしたい。会議の傍聴も可能ということを確認した。続いて、改革の必要性を説明してほしい。

(行政課：目次と1 行政改革の必要性の説明。第1章①から④までを順に説明。)

委員長 プランと行動計画を必要があれば修正し、市民目線で議論をしていきたいということで良いと思う。その前提となる行革の必要性の部分で、これまでの経緯だとか、取り巻く状況、財政運営などを説明いただいた。財政は難しい用語が出てきたが仕方がない。重要なのは3ページだと思う。行革は往々にしてコストカットとなる。今回のプランはコストカットだけでなく、行政経営なのだということ、高齢化、人口減少の問題は岩倉市も避けて通れない。そのような状況の中で、岩倉市はこれから行政を進める中で絶対に必要なことを維持しながら、不必要、漫然とやっているところについては切り込む、力加減を意識しながらやっていきますよというのがこの行政経営プランだと思う。そういったことを謳っていると思うが、直すところなど意見はあるか。

委員 2ページで本市の財政は県下で低いところだが、全国的にはそこそこだと思う。総務部長、補足説明はあるか。

総務部長 愛知県は自動車産業を中心に良かった。岩倉市は自動車産業の下請け等は少ない。どうしても法人税の伸びが少ない。給与所得者が多く安定しており、固定資産税は多い方である。国勢調査などの結果から見ても本市の人口は若干減っている。このような状況でどうかといえば、県下で下位の方だが、全国では真ん中より若干上の方あたりである。職員の人件費の割合はまだまだ高い。職員の給料は低いが数を減らしたことによる努力で改善はされてきているが、まだまだ何とかしなくてはという状況にある。

委員長 ここで全国的にこの位置にあるというのはあまり言わない方が良いのか。三重県

民からすれば愛知県は良い。特に桑名は厳しい。四日市は東芝の工場ができたので大規模償却資産の収入がある。減価償却が早いから収入が減るのも早い。それに比べ個人の税収は確実だが、岩倉の場合は個人の税収が減る可能性がある。それに備えなければいけないということかもしれない。これからはリタイアする人が増える。固定資産税はさほど伸びないのなら、税収全体が減ると思う。今後の財政見通しは出せるのか。

総務部長 このことは、前回のプランでも厳しい意見をいただいた。現実にくら足らないのかという視点がない、それがなければ行革はどうやるのだという意見をもらった。国もそうだが、岩倉での収支見込は非常に厳しい。岩倉市では実施計画で3年間の見込みに留まっている。税は5年間見ようとしているが、市財政全体では3年の見通しとしている。

委員長 いくら削らなければいけないか、いくら支出するのか、必要かの総量は把握しにくいというお話だった。

委員 かなり前半部でマイナスイメージの記述だ。お金がないということの印象。岩倉市の住民が隣の市の方が良いと思っても仕方がないと思える。私は全国との比較は載せた方が良いと思う。全国平均よりも上ということであれば少し安心できる。

総務部長 いろんな指標がある。岩倉市は、全体のすみやすさからいえば高い。財政は厳しいが、保育や医療のサービスはそんなに悪くはない、サービスが低いから他市へ移るというレベルではないと思っている。

委員長 財政運営の状況を見るとお先真つ暗に見えるが、たぶんそんなことはないよということだ。4ページ以降の総合計画で市の目指す姿を示してあるから、その実現を目指すためのツールとしての行政経営プランのところまで進めば、明るい姿が見えると思う。

(行政課 2 総合計画との関係、3 目標年度 及び4 基本目標 の説明)

委員長 何のためにプランを作ったのか、私たちは何を検討しなければいけないのかというと、経営プランは総合計画の実現のためのツールであるから、そのツールとしてきちんとしているかをチェックしようという趣旨になると思う。総合計画の配布をお願いします。

(第4次総合計画を配布)

委員長 6ページに4つの柱が立てられている。前回までは(3)の財政基盤の確立がメインだった。それに加えて、(1)の話がくつついてきていた。これまでは(2)の市民協働、(4)の組織力・職員力はほとんど出てこなかった。前回までは国が行革指針を示した。その内容は財政と民間活力が中心だった。地方分権が本格化したので国は言わなくなった。岩倉市は1年間かけて今度の行革をコスト削減だけでなく、経営の観点から、市民協働の推進とか組織力をどう向上させるか、組織をどう変えていくのかということ行政経営として今回のプランに盛り込んでいこうということだと思う。これは岩倉市

独自のスタイルだ。比較をどうするかは一度検討してほしい。

委員 財政は県内では低位だが、全国的には中位ということを入れても良いと思うが、市が作るこのようなプランの場合は、未来にはこのようなことが生じうるということを書いた方が良いと思う。このプランに基づく取組を行うことによりそれが回避されるという目標を作る意味での前書きだと思うので、軽く入れておく程度で良いかと思う。これから具体的な中身に入っていくので、そこでいろいろな疑問点が出てくると思う。

委員 私たち市民の間では、岩倉市は財政が悪いから税金が高いという話になっている。

委員長 岩倉市に納めている税金の税率は、ほとんどどこの自治体とも同じである。

委員 それが本当であれば、この文章を見てもっと高くなると感じ危機感を覚える。収入と支出はある中でしなければいけないので、どこかで我慢してもらおうということも必要ではないか。また、眠っている資源を掘り起こすことはどうか。例えば私の夫は65歳だが、まだまだいろいろなことができると思う。そういう力の活用を考えてほしい。

委員長 それが今回の目標の1つにある協働の推進である。これまで、愛知県内のほとんどの自治体は税収が上がっていたから、何でもサービスを提供していた。これからそれができるのかといえば、豊田市でもどうか分からない。国内で車を作らなくなるかもしれないし、本社が豊田市にずっとあるか分からない。そうなったときに何でも市がやっていたことができなくなるというわけにはいかない。これからは、元気なお年寄りが元気のなくなったお年寄りの面倒をみるということもするべきだと思う。声をかけ、気にかけて、買い物に行きあげたりということがこれからの地域社会には必要になると思う。岩倉市ではこれから作りますということが書いてある。総合計画の実現に向け行政経営プランを作って進めていく。その明るさが見えなければいけない。総合計画の実現のための推進エンジンであるということをもう少し詳しく書いても良いかと思う。

行政課主幹 総合計画は、どちらかといえば夢のあることが書いてあり、この計画の進捗管理は企画財政課で行う。それを進めるに当たりいろいろなサービスを展開するのは良いが、事務の効率化や、質を向上するという行政経営の観点から見るとどうなのかということでプランを策定していきたい。プランでは4つの柱を立て、こういう視点から切り込んでいくと、各課は何をするのかという考え方で進めている。総合計画の下支えをするというつもりで作っている。

委員 前半で経営から管理へということで、4つの柱が出ているが、岩倉市に限らず日本全土でこれから高齢化、労働人口の減少が進み、どこでも財源が不足するのは同じ状況だと思う。企業で言えば歳入は売上高だと思う。コストカットは重要だが、税収を上げる方策を取らないとジリ貧になると思う。鳥取の境港市の観光協会が地元とタイアップし観光振興に取り組み観光客が増えている。この成功例を参考にしてはどうか。企業を呼ぶのか、特急が止まるという利便性を生かし人口を増やすのかわからないが、集客というか、収入を増やすことに注意を持っていかないといけない。その辺りにあまり具体性が感じられない。コストカットには限界がある。

委員長 名古屋周辺の市は全てそれを考えている。その中で、岩倉が選ばれるのに何が必要かを考えるべきである。特急停車駅以外に何があるのか。この後の市民満足度が上がれば、選ばれるようになるかということも一つあると思う。

委員 ここへ異動するまで岩倉市のことは知らなかった。岩倉のアピールが足りないかと思う。

委員長 五条川の桜は知っていても、岩倉がメインだということは結びついていない。歳入増の明確なストーリーは示されていない。

委員 私も同じ意見である。事務の効率化には限界がある。財源、歳入の確保をどのようにするかが大事だ。

委員 岩倉の目指すところは何かを考えなければいけないと思う。岩倉市は土地も人口も少ないが、高齢者は増えていく。収入は少ない。どういう方向に向かうかといえば、岩倉市は桜の木しかない。5ページの基本目標に「産業振興」とある。企業誘致か岩倉の産業振興か分からないが、岩倉市の産業のイメージも名古屋コーチンくらいしか思いつかない。地域活性化・産業振興のイメージが私はわからない。岩倉市は名古屋のベッドタウンで寝に帰るだけ、通勤族が多いイメージだ。残るのは高齢者だけというイメージもあるが、もっと魅力ある町にするには、何を柱にすれば魅力的に感じるかというところが大事だと思う。

委員 小学生は誇らしげである。私の小学生の娘たちは、三つ葉農家の生産高が高いことを自慢げに語る。大人になれば現実がわかると思うが、子ども世代は悲観的ではない。

委員長 5ページの地域活性化・産業振興について書くのは簡単だが、これが基本目標にあるのでその後の項目にたどり着くことができるという期待を持たせる書き方がしてある。ただし、この目標をなくすことはできない。けれども、行政経営プランとしてどこまで書き込めるのか、それを行動計画として各課はどうするのかということがこれから書いてある。どこまで市民に届くのか。

ここで休憩とするが、これまでの意見をまとめると、①財政の全国としての位置づけ→市民としての自信がほしい、②総合計画としての推進エンジンとしての側面もあるが、各課に渡り総合計画を下支えするものであることをはっきり示す、③地域活性化・産業振興についてこれで良いのかということも出てくるかもしれない。推進委員会で出てきた意見をまとめ、市長に意見書として提言しなければいけない。

15時05分 岩田委員退席。

(行政課 5 指標・目標値の設定 の説明。経営指標1から4を順に説明)

委員長 市民満足度については、総合計画15ページのアンケート結果のことである。重要であるが満足度が低いところを上げていくことが示されている。毎年のアンケートを

するということだが。

行政課主査 予算要望の段階だが、委託によるコンサルタントを使わず、市がアンケート用紙を作成し、無作為抽出で選んだ1500名に送付し、その結果をエクセルで集計する。

委員 市民の満足度が気にかかる。市外に転出した人は何か不満があったのではないか分からない。先ほどの桜の話ではないが、市外の人はどう思っているかを検討することも重要ではないか。市に住んでない人、岩倉市から転出した人の意見も指標として入れるとおもしろいかと思う。

委員長 三重県南部の市で、この3月にどういう理由で転出するのかという簡単な窓口での調査を行っている。尾鷲では子どもが高校に入学するという理由で転出する。岩倉とはだいぶ違う。それをつぶしていかないと定住は程遠い。そういうやり方で、かなり簡単な理由調査ならできるかもしれない。これをしつこくやれば個人情報につながる。できないことではない。私は、個人情報保護法施行前に、我孫子市で若い者を対象にして転出先に手紙を出し、どうして転出したかを尋ねるアンケートを行ったことがある。随分クレームも来た。就職、結婚などの人もいたが、そういう人がどんなことがすれば戻ってくるかということと考えたら、世帯分離して出て行く人が多く、二世帯住宅への建て替えを支援しなければならないという結論になった。そういう施策を打ち出す根拠が浮かび上がればよい。良好な住宅環境を守るということで二世帯住宅の建築を阻んでいる。だから若者が出て行き、高齢者が残る。そこで容積率の基準を見直すという考えもある。駅前に近居用のアパートをつくり、同居はできないが介護はできる。そういう施策が出てきそうなアンケートだった。今は個人情報の壁があり簡単な調査しかできない。産業振興という観点から、出て行く人の理由を洗い出し、それを1つ1つつぶしていく作業は必要だろうし、転入する人がこれからずっと住み続けてもらう施策は何かを考えることは必要だと思う。住み始めた人の要望はアンケートの中で居住歴を聞けばわかる。どこの自治体でも転出した人の思いは聞けていない。それは、何らかの形で聞いてみるのは良い。やり方は難しいが。

委員長 小牧岩倉衛生組合のごみ処理施設の更新は新設か。

総務部長 新設である。すぐ隣に造成し新施設の建設をする。

委員長 将来負担比率は100パーセントにいく可能性はあるか。

総務部長 試算では100パーセントにはいかない。イエローカードは250なので今のところよいと思う。

委員長 先週合併で苦しむ篠山市へ行ったが、ここは将来負担比率が200%である。県内で格段に悪い。市広報で市が苦しいことを明らかにして、そのためにどうするのかを訴えている。好感が持てた。

総務部長 篠山市は合併特例債で公共施設を多く作っている。町並みはきれいだが、その反動で財政が厳しいと聞く。

委員長 多くの施設で年のうち4か月は休館状態ということもあるようだ。そこまでは、岩倉はまだ大丈夫のようだが。

委員 市民満足度を測る意向調査について、1500世帯だが、岩倉市全体で何世帯あるか。

行政課主査 18000世帯である。これを無作為に抽出し調査する。

委員 全くカテゴリのない無作為か。調査する1500世帯がこれから岩倉市に住み続ける方が多ければ良い。引越しなどで移動する世帯もあるだろうし、子どもがいる世帯か、現役世代か、引退世代か。それにより満足度は変わってくるのではないか。

委員 アンケートの結果はホームページで結果が公開されているものか。農業の人は少ないと書いてあったと思う。

委員 経営資源を活用したいとあるので、現役世代の満足度を採ったほうが効率的ではないかと思う。

行政課主幹 岩倉市の縮図ということで無作為で抽出し調査をしたい、その中から年齢別に洗い出せばその年代の意向がわかる。

委員長 年齢と居住歴でクロス集計をかけるくらいか。個人情報保護が厳しく、民間のようなマーケティング手法が使えない。15歳から64歳を現役世代と仮定するしかなく、働いているかどうかは答えさせるしか手法がない。我孫子市では50歳代の東京に通勤するお父さんに対する調査を行ったが、これも個人情報保護法施行以降できなくなった。住民票の50歳代と税務マスターで特別徴収で東京の企業をかけて抽出した。それを今しようとするれば、それぞれに了解をとらなくてはならず、個人情報保護審査会に了解を得なければならなくなった。

委員 アンケートをしたいが、協力してくれということならよいか。満足度と同時に不満の中身を知りたい。集計は大変だろうが、1500では1割にも満たず回答結果に信頼が出るのか。

委員長 無作為抽出で、1割を超え、1000以上なら統計上意味があると思う。不満については広聴の方で意見を聞く機会もあるだろう。

行政課主幹 「市民の声」がある。ホームページからも投稿できる。今回のプランの市民満足度の指標については、総合計画と全く同じ条件で調査を行ったときにどのような結果が得られるのか、毎年定点観測していこうということを考えている。他のご意見は広聴で考えている。

委員 電話してくる人はよほど不満のある人である。多少の不満はこちらから聞かなくては聞けない。そういう意見が大事ではないかと思う。

委員 近所の会話ではよく出る。市に言えば良いのにとすることもある。本音が言えないのか。お互いのために言い合ったほうが良いのではないか。

委員 無記名でも、世帯構成が分かれば良いと思う。

委員 ホームページでもアンケートに答えた人の年齢層、家族構成は載っていた。

委員 この10人の委員中にも、若い子育て世代が入っていない。そういう方の意見も聞いたほうが良い。

委員長 これまでの意見をまとめると、市民の満足度を総合計画のアンケートと同じもので定点観測的に測る方法もある。一方で、今後の岩倉のためということであれば、転出者などの意見、難しいかもしれないが市政に対して不満を寄せてきた人の意見、近所の井戸端会議で出てくる不満の意見も集約できる仕組みが必要であるということ課題として提起したい。特に子育て世代に定住してもらうのは岩倉の一つの課題だと思う。子育て世代の不満の調査も本当はやりたい。

行政課主幹 指標としてはこのような形としてお願いし、後の市民協働の推進などでこのようなことも考えていければ良いと思う。

(行政課 6 改革の柱とその方向性 の説明。(1) ①から④を順に説明。)

委員長 このプランの作り方は、各課の行動計画から柱を作ったのか。

行政課主査 ここに書いてある柱を先に作り、各課へ説明依頼して、行動計画を作った。

委員長 私は、PDCAの前に「R」をつけるべきだと考えている。できるだけリサーチがあってプランを組むのではないかと提起している。Rができないことが多い。参考までに。

委員 10年前の計画だとワンストップサービスということがあった。今、市役所の窓口は良くなったと思うが、現状はどうか。

企画財政課長 庁舎建設時には1か所で窓口ができる総合窓口を目指すという考え方でこの10年やってきたが、実際の運用をしてみると、いろいろな手続きがあり、一か所で1人の職員が対応することはできず、市民の方も1か所で手続きすることはストレスもたまる。1階の市民窓口に総合窓口ゾーンのような構成をとりたいと考えている。学校関係などは連絡票が出る仕組みとなっており、それを持って該当窓口へ行く仕組みである。当初の考え方とは少し変わってきているが、今のところ市民の方からこのことについて特段の意見は出ていない。

委員長 私もいろんな市役所に行くが、ここの窓口は充実していると思う。

委員 銀行と違い、市役所は1か所で手続きするのは難しい。実情を他の委員さんにお分りいただけたと思う。

委員長 (1) ①で、実感されていないのかと感じるので、「より」をつけた方が良いと思う。

委員 要望があって、開館時間の拡大をするのか。

行政課主幹 要望があるなしに関わらず、全体の方向として今後検討していくべきものとして書いている。

委員 財政的に厳しい岩倉市が開館時間を拡大するのは財政的に余裕があると思われるの

ではないか。

委員長 公共施設は市民に使ってもらうのが本来の姿である。施設により性格は異なる。

委員 市役所の日曜開庁はフルサービスか。

行政課主幹 一部のみのサービスです。

委員 図書館は昔早く閉まっていたが、今はどのような状況か。

総務部長 夜7時まで開館している。

委員長 そのことも、このプランの検討対象となるだろう。

委員 総合体育文化センターは今でも修理するようなところもあり、開館時間を延ばすとさらに経費がかかると思う。それでも開館時間の延長が可能なら良いが。

総務部長 管理を民間委託し、浮いた経費を大きな改修などに充てたい。

委員 今は総合体育文化センターに市の職員はいるか。

総務部長 いない。委託先の職員のみである。

委員 ちょっと詳しく聞くと、そこは聞いていないということが多く、民間委託によりサービスが低下しては良くない。もっときめ細やかな指導をできるようにしてほしい。

委員長 そのことは、今後個別の計画の部分で発言をお願いしたい。

(行政課 (2) ①から③を説明)

委員長 先程のアンケート手法の手続きが、この③にかかってくる。インターネットでいえば、鈴鹿市などでは、携帯メールを登録していただき、携帯メールでアンケートを7・8年前に始めたという手法がある。携帯はお母さん方が使っている。あと2・3年で、スマートホンで子育て情報を流せ、取得できるような状況になるのではないかと考えている。スマートホンは双方向だ。

委員 スマートホンが2・3年で浸透するのは無理ではないか。若い世代は良いだろうが。価格も高い。子育て世代はどうか。

委員長 スマートホンを手段としては扱えるようにしておくことは必要かと思う。自治基本条例のキックオフ講演でも関連したことを話す予定にしている。

(行政課 (3) ①から④までの説明)

委員 「②積極的な財源確保」は、題名は力が入っているが、内容が薄い。ボリュームを増やしてはどうか。

委員 ②積極的な財源確保の行動計画を見ていたら、細かい項目が多いように感じる。

行政課主幹 方向性としてはこの記述通りだと思う。岩倉市にどんな産業があるか、雇用の創出といってもこういう経済状況の中で岩倉市がどこまでできるのか。今の段階の行動計画では担当課からはビジョンが示されていないのが現状である。冒頭市長が満足し

ていないと言っていたが、この部分もそのひとつだと思う。薄いといわれるのはもっともである。経営プランでも盛りだくさん書けなかった。

委員 いざ市の立場に立つと、材料がないのはわかる。行動計画には企業誘致が挙げられていたが、その他は魅力的には見えてこない。

委員 歳入が民間企業でいう売り上げだとすればマーケティング手法を使わないといけない。真剣に探せば意外に地場産業もあるかもしれない。岩倉市の強み弱みを洗い出し強みを生かす仕掛けをしていかないと、机の上で考えるだけではなかなか進まない。企業なら利益が確保できなければ何が何でも確保しなければ死活問題になる。どの企業でも考えている。いろいろなマーケティング手法を使い産業を生み出す努力をする。いろいろな知恵を出して生み出していく努力が必要である。

委員 昔は岩倉にも大きい企業があった。名古屋螺子やハツネ電気などはどうして出て行ったのか。

総務部長 名古屋螺子は公害の関係で岐阜に出て行った。第3次の総合計画においても岩倉はどのような方向性を目指すのかを決めた。しかし、一方で産業を考えなければならず、苦しい立場にある。

委員長 ②積極的な財源確保の部分は、マーケティング手法や外部の知恵を借りるなど膨らましていくようにした方が良い。

(税務課 行動計画(3)①中、税務課所管部分の説明。)

委員長 市民からすると、税務も言葉が難しい。滞納繰越は増えていくのが良いことなのか。

税務課主幹 滞納繰越分はその年に徴収できなかったものが翌年度以降の調定に加わっていくものであり、減らしていかないといけないものである。

委員長 行動計画における現年度の徴収率も滞納繰越分の調定も徐々に上がっていく内容になっている。

税務課長 税には5年の時効があり、実態の話として、高齢者の1人住まいや働けずに収入のあてがない人は、いたずらに調定を残してもいけないので、やむを得ず不納欠損をしている。滞納があるのは支払い能力がある人になっている。この中で収納率を上げていくという努力をしている。

委員長 今のような説明が、もっと分かりやすく文中にあると良い。無理に取り立てられないから配慮するとこういう数字になるということがあっても良い。市民は分かりにくいだらう。

委員長 コンビニ収納は来年度から行うのか。

税務課主幹 24年度の当初から行う。滞納繰越分も行う。23年度の補正予算で、500万円かけてシステムの改修を行った。

委員長 500万円かけて、24年度で回収できるのか。

税務課主幹 収納率の向上には直結しない。市民の利便性の向上の観点につながる。

委員長 数値目標は収納率くらいしかないか。市民の関心も高い。ぱっとみて分かる指標があると良いと考える。

委員長 土地家屋の現況調査の話で、課税漏れが360件あり、23年度から25年度までで課税漏れを無くすということだと思うが、23年度に新たに課税した額は分かるか。

税務課主幹 これらは翌年度課税になるので、平成24年度に80件の調定となる。この分は収入増となる。

委員長 そうなのは実績として謳えるのか。

税務課主幹 翌年度が終われば実績として謳える。

委員長 実績として市民に知らせなくてはいけない。どうして360件なのかということにもなるが。

委員 80件については、遡って課税するのか。

税務課主幹 遡って課税するのは悪質な場合である。市の事務による単なる漏れは、家屋調査漏れや建築確認を取らずに建ててしまう場合である。今回、全ての家の位置を住宅地図に落とし、確認した。免税点以下で課税がないものを除き課税が新たに発生するのは360件あった。27年の評価替えまでに課税を完了していきたい。

委員 建築確認を取らずに増築したものは悪質に入るのか。

税務課主幹 通常は建築確認をして家を建てる。法に基づいて行うべきである。

委員 故意に建築確認を出していないのか。

委員 普通の感覚では、それは悪質だと思う。

委員長 個人の財産の部分については、自治体に対応するのは難しい。違法建築なら強制的に取り壊しても構わないはずだがほとんどしない。

委員 市職員がいつも車でまわっているようだが。

税務課主幹 土地は見てわかるが、家屋は家の中に入らないと確認できない。例えば、都市整備課の航空写真と家屋調査を足して資料ができれば良いが、経費面も考慮し、住宅地図に落として見つけ出した。

委員 建築確認の届出の周知はしているか。

税務課主幹 税務では行っていない。建築サイドで指導すべきである。

委員 日曜大工で家を建てるわけではない。まともな人が馬鹿を見る。

委員 周知はすべきである。

委員 広報に、建物を壊した場合は届出してくれというのは見たことがある。

委員長 実績は大きくPRするということだ。

税務課長 住宅の場合は、税金ありきではなく、建築確認がしっかりされることが第一である。

税務課長 市民へのアピールという点では、4つ目の項目の特別徴収について、これはす

ごいことと考えている。普通徴収から天引きすなわち特別徴収にすると収納率が上がる。昨年度と比べて2500万円くらい上がっている。このことはPRできる。

委員長 目標値はあるのか。

税務課長 3人以上の事業所は全て特別徴収にすることが法律で規定されている。

委員長 天引きすれば収納率は上がるが、納税の意識が薄れるのが怖いところである。申告して納付書から納税したほうが納税者の意識が高まる。特別徴収の制度は戦中できた制度であると記憶している。いずれにせよ、私たちは、負担の公平性の観点から、実現してほしい。その実績をアピールしても良い。

委員 コンビニ収納を行うことと嘱託徴税員1名減で、関連があるのか。

税務課長 1人250万円支払っているので、2年で回収できると考える。コンビニ収納は実施すべきであると考えます。

委員長 明確な算定ではないが、コンビニ収納で事務が楽になるという考えか。

税務課長 コンビニ収納は、市民サービスのアップという面が強い。

委員長 PRの仕方について、考えていただきたい。滞納繰越の表現を分かりやすくする。特別徴収の向上もPRポイントであれば書き加えてほしい。現況調査の話は、書き加えるということではないけど、建築確認とリンクすることを前提として進めてほしいというのが委員会の意見である。

委員長 次回はプランの残りの部分と各課の行動計画を聞いていく。その上で、各課への意見をまとめていく。

(委員の感想)

委員 初回だがいろんな意見が出た。これなら実りのある委員会になると思う。

委員 勉強になった。もう少しこの委員会の狙いをお伝えいただけると、短時間で練りこんだ議論になると思う。

委員 知らないで出席すると迷惑になるので、勉強してきたい。

委員 普段聞けない話が聞けたので良かった。これからはもっと意見が言えるようにしたい。

委員 一生懸命発言した。

委員 なかなか市全体のことを考えたことがなく、今日のこの時間で何となく感じられた。市民感覚から見ていきたい。

委員 今日は何が何だか分からずに聞いていたが、次はもっと発言したい。

委員 財政を見るとそのまのことが分かるという。限られた財政で岩倉市をどうするか、作り上げていきたい。